



2022 SEPTEMBER Vol. **6**

多摩ブルー・グリーン倶楽部 会報誌

Tama Blue & Green Club Magazine

たまの力

INTERVIEW

P2

トップリーダーに聞く

三鷹光器株式会社 代表取締役社長

中村 勝重 氏

P3

新事業にチャレンジ

株式会社グローバルエージェンツ
代表取締役社長

山崎 剛 氏

P4

事業承継を経験して

新協電子株式会社 代表取締役社長

中西 英樹 氏

P5

グローバル企業の最前線

日本分析工業株式会社
代表取締役社長

大栗 直毅 氏

P6

地域貢献

株式会社エマリコくにたち
代表取締役

菱沼 勇介 氏

P7

倶楽部事業レポート



お客さまの幸せづくり
たましん

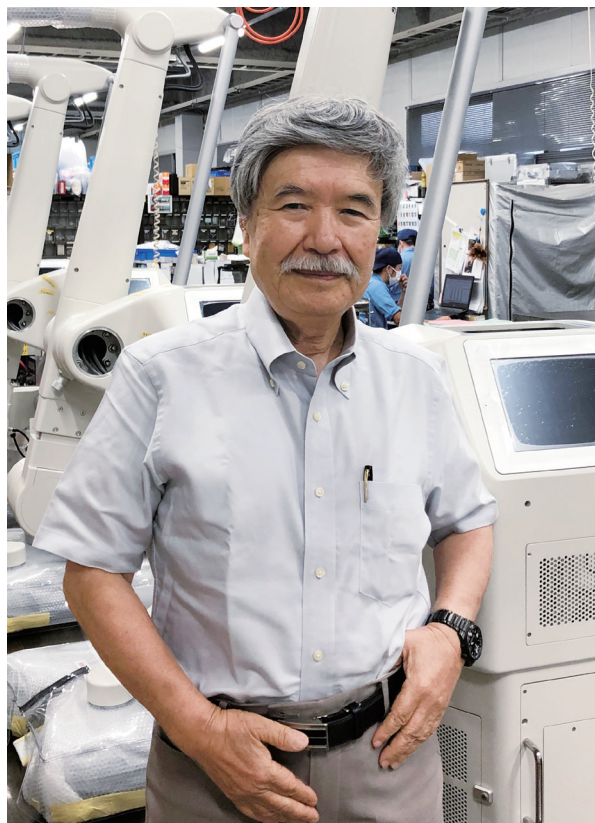
現場に足を運び「見る」ことが起点!

創意工夫と高い技術力で ゼロからものをつくり出す

幅広い分野に貢献する 精密機器のニッチトップ企業

創業以来、大型の天体望遠鏡やロケット・人工衛星の搭載機器、南極観測やNASAのスペースシャトルで使用される各種観測装置などを開発・製造する三鷹光器株式会社。1980年代以降は非接触三次元測定装置などの産業用精密測定機器や医療機器、太陽光蓄熱システムなども手掛け、幅広い分野に貢献してきたもののづくりのニッチトップ企業だ。

各国の研究機関や大手企業から認められる同社の技術力や、「ゼロ



三鷹光器株式会社

代表取締役社長

なかむら かつしげ

中村 勝重氏

東京都生まれ。工業高校卒業後、兄の中村義一氏が営む有限会社三鷹光器製作所に入社。1966年、兄とともに三鷹光器株式会社を設立し、1994年に代表取締役社長に就任。

からものをつくり出す力」はどのようにして培われてきたのだろうか。中村勝重社長に伺うと、こんな答えが返ってきた。「当社は『設計図は現場にあり』という理念のもと、開発する製品が使われる現場を視ることを大切にしています。目と

脳をつなぐ神経は、耳や鼻の神経と比べて圧倒的に太いのですから、自分の目で現場をしつかり視たうえで、ものづくりののぞむことを基本としているのです」

たとえば医療機器分野では、実際の手術に何度も立ち会い、装置を動かしても焦点がずれない手術用顕微鏡の開発へとつなげた。すると、導入した多くの医療機関から「より正確な手術が可能になった」と高評価を得たそう。

まさに、目の前で行われている医療に自社の技術をどう生かせるかを見極めた結果だと言えるだろう。

自社のものづくり精神を 次代につなぐために人を視る

現場重視を貫き、アイデアと技術を結びつける三鷹光器は、「創意工夫のない事業はしない」という。中村社長はそのものづくり精神を、どのようにして社内に浸透させているのだろうか。

「当社の入社試験では、面接の際に『週間後に、模型飛行機の製作や電球のデッサンなどの課題を実施する』と伝えます。その日は昼食も用意し、食事の際の箸の持ち方や、図らずも苦手な食べものが出てきたとき本人がどう対処するかなどを注意深く観察しています」

履歴書の情報や知識の豊富さ、手先の器用さだけではなく、考えをポンチ絵に描くことができるかを「視ている」のだそう。

第3回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

三鷹光器株式会社

<http://www.mitakakohki.co.jp>

東京都三鷹市野崎1-18-8

TEL:0422-49-1491 FAX:0422-49-1117

E-mail:sales@mitakakohki.co.jp

●創業:1966年5月 ●従業員数:107名(2022年8月末現在)



社長のひとこと

ものづくりの基本は「よく視ること」。その力を培うことができるのは子どもの時期が有利です。好奇心旺盛な子ども時代に「本物をたくさん見せること」が親の大きな役割ではないかと思います。

世界に向けて 新しい文化を生み出す プラットフォームを つくり続けていく

株式会社
グローバルエージェンツ

代表取締役社長

やまさき たけし
山崎 剛氏

東京都出身。2005年、東京工業大学在学中に有限会社グローバルエージェンツを設立。卒業後、外資系証券会社を経て、2009年に株式会社グローバルエージェンツの代表取締役に再就任。

「自分らしい滞在」を 可能にする ライフスタイルホテル

2005年の創業以来、ソーシャルアパートメント事業を行う株式会社グローバルエージェンツ。「ソーシャルアパートメント」とは、集合住宅内にラウンジやキッチンなどの共用部を設け、住人同士のコミュニティ形成を促す新たな住まいの形だ。同社はこの隣人交流型賃貸物件を全国に51棟約3000室運営している。さらに、2013年からはホテル事業にも着手し、6ブランド11軒のライフスタイルホテルを運営しているが、昨年7月にそれらを統括するアンブレラブランド「LIVELY HOTELS」をリリースした。

「ホテル事業への参入は全くの異次元ではなく、我々が提供するコアサービスの『期間』『体験濃度』『対象人数』のバランスが異なるだけだと捉えています。ソーシャルアパートメントでは交流、変化、成長など様々な体験価値が生まれていますが、ホテルでも同様のものを提供することで、濃度としては薄くなるものの、より多くの人に体験してもらうことができます」と山崎剛社長。

「自分自身をアップデートできる場所」。ソーシャルアパートメントと同様に、共用部に何らかの機能を付加することで、利用者それぞれの個性や嗜好性、ライフスタイルに合った自由な滞在が可能だ。

「パッケージツアーでの旅行が減少し、旅行者本人がフライトや宿泊先を選ぶ時代において、ホテル滞在にも「自分らしさ」を求める人が増えています」

ライフスタイルホテルは、そうした要望に応える場所といえるだろう。

目指しているのは 文化の創造 それが私たちのミッション

同社は、ソーシャルアパートメント事業やホテル事業の他にも、飲食事業、ワークプレイス事業も展開しており、これらのすべてに一貫した思いがあるという。それは「世界に新しい文化の可能性を生み出すプラットフォームをつくり続けていく」ということ。

「私たちが考える持続可能な社会とは、誰もが多様な情報・多様な人脈・多様な機会にアクセスでき、組織に過剰依存することなく自身の軸を持ち、互いに尊重しながら自己実現に邁進している社会です。そのために社会課題を本質的に見据え、新しい価値観やライフスタイルを提案し、『新たな文化』として昇華させていきたいですね」と話してくれた。

第9回多摩グリーン賞 最優秀賞受賞

株式会社グローバルエージェンツ
<https://www.global-agents.co.jp>

東京都渋谷区神南1-20-13

TEL:050-3503-3625 FAX:03-6824-9411

E-mail:info@global-agents.co.jp

●創業:2005年5月 ●従業員数:630名(2022年8月末現在)



社長のひとこと

仕事のうえでは、優先すべき点や物事の判断基準などを社員と共有しています。決定事項を伝えるだけでは「なぜこれをするのか」と疑問が生じてモチベーション低下につながるので、どんなに小さな決断でも理由をしっかりと説明することを大切にしています。

新協電子株式会社
代表取締役社長

なかにし ひでき
中西 英樹氏

三重県出身。工学院大学工学部卒業後、富士通株式会社にてソフトウェア開発に携わる。管理職を経験した後、2004年に新協電子株式会社に入社。2010年に代表取締役社長に就任。

大手メーカーの下請けにはならない！ 創業者の思いを引き継ぎ チャレンジを重ねて発展を目指す

自分はどこまでやれるのか
試してみようと事業を承継

社会インフラシステム向けの電子機器を開発・設計・製造・販売する新協電子株式会社。生産工場を持たないファブレスメーカーで、主に国内外の鉄道や高速道路、防災無線などの重要施設で使用される音声・映像伝送装置に特化している会社だ。

同社の中西英樹社長が義父の小池昭三

郎氏から事業を承継したのは今から18年前、42歳のときだった。

「当時私は富士通で管理職に就いており、中国の会社に製品開発を依頼していたのですが、同世代の彼らが事業を国とともに発展させようと生き生きと働く姿に刺激を受けました。そして、自分にもそんな能力があるのか試してみたいという気持ちになり、事業を引き継いだのです。そのとき『大手メーカーの下請けにはならない。常に自社製品を開発していく』という、創業者である義父の意志を引き継ぎ、チャレンジを重ねて発展させていこうと決意しました。しかし継承時は人員が少なく、既存の顧客対応が精一杯でした。そこで技術系の社員は全員新卒を採用し、一から育てることにしたんです。結果、今でも中途採用は私だけです」

教育制度と環境整備で 社員の成長をサポート

同社の人材育成の方法は多岐にわたる。たとえば、教育・研修をメニュー化して、社員に学びの体系化が示されている。また、全社員が閲覧・投稿できるナレッジシステ

ムを構築し、SNSで社内間コミュニケーションを図りながら情報を共有している。さらに、全社員の詳細なスキルマップを作って目標を明確化させ、その結果に伴う給与体系・昇級制度を確立・実施するなど、やりがいや達成感を感じながら知識や技術を習得できるようサポートしているのだ。

人材育成の他にもう一つ、中西社長が意識的に変えてきたことがある。

「就任当時、この会社の給与は大手メーカー同等に良かったのですが、雇用規則や職場環境などは整備されていませんでした。創業時の苦労から、もったいない精神は大切ではあるものの、異なる形のスチールの机、ガタガタの椅子、雨漏りする天井ではやる気が起きません。そこで、必要な整備を行い、会社情報もオープンにして、社員自身が目標を持てる制度を作っていかうと考えました」

これらの変革により、社員の成長はめざましく、20018年には中古の居抜き物件から新築の社屋に移ることに。売上規模も継承時の2倍ほどに上る今、中西社長は5年先を目処に、次の継承者に事業を渡すつもりで準備を進めているそうだ。

第13回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞

新協電子株式会社
<https://www.sinkyo.co.jp>

東京都八王子市台町1-22-19
TEL:042-634-8190 FAX:042-649-7431
E-mail:nakanishi.hideki@sinkyo.co.jp
●創業:1964年5月 ●従業員数:29名(2022年8月末現在)



社長のひとこと

事業を承継した者は、すぐに結果を出そうとせず、まずは会社のお金の流れを全て把握したうえで、前任者のやり方をなぞるといいでしょう。前任者が気づかなかった改革・改良点が見えてくると思っています。

大手企業には できないものをつくる! ニッチ分野で世界へ展開

大企業との競合に破れて ニッチ製品の開発へと戦略転換

日本分析工業株式会社は大学や大手企業の研究機関向けに、分析機器や理化学機器の開発・製造を行う会社だ。とくにリサイクル機能を搭載した分取液体クロマトグラフは、国内市場でのシェア率90%以上を占める。

また、1977年からは中国をはじめ、韓国、台湾、アメリカなどに進出し、現在では海外に4カ所の拠点を設け、輸出国は30カ国に上るグローバル企業だ。

しかし「最初から順調だったわけではない」と大栗直毅社長。

「会社を設立した当時、汎用型の分析装置を上市しましたが『知名度が低い』『アフターサービスの拠点が無い』などの理由で、大手企業との競合に破れました。その経験からニッチな分析装置の開発へと戦略転換をしたんです。海外展開においても、中国や韓国、台湾では現地商社を通じて早い段階で軌道に乗せることができましたが、国土の大きいアメリカでは同じやり方は通用せず、当社主導で展示会に出展し、エンドユーザーと直接コンタクトをとるとともに、販売後のアフターサービスにも力を入れるなど、地道な活動が必要でした」

手応えを感じなければ大きく舵を切る、目の前の問題を正しく読んで試行

錯誤。これを繰り返して現在に至ると話してくれた。

開発した製品はあきらめない 自社の技術を信じて前に進む

中小企業優秀新技術・新製品賞や世界発信コンペティションベンチャー技術特別賞などの受賞を果たし、2020年には経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」にも選定された同社。世界市場で確たる実績を残した、その国際競争力はどういうように培ってこられたのだろうか。

日本分析工業株式会社
代表取締役社長

おおくり なおき
大栗 直毅氏

徳島県出身。高知大学文理学部卒業。1965年、仲間2人とともに日本分析工業株式会社を設立。その後も34年間3人体制で経営を続け、1997年に代表取締役社長に就任。



「当社は常に『市場にない製品』の開発を目指してきました。ときには、それが期待したほど売れないということもあるのですが、それでも決してあきらめません。大事なことは製造をやめないこと！ そうすると予想だになかった分野のお客さまから声がかかることもあります」

少数精鋭の同社。情報収集と研究を重ね、幅広い知識と高度な技術を結集させて、世の中にまだ存在しないものを生み出している。そして、一度生み出したものは売れるまであきらめない。不屈の精神と製品への自信が国際競争力を高めてきたのだ。

社長のひとこと

分析装置を完成させるためには、機械、電子、組込みソフト、化学、物理のエンジニアが必要ですが、中小企業の当社は人材が制限されていますので、幅広い分野をこなす技術者の養成に努めています。

第5回多摩ブルー賞 最優秀賞・第13回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

日本分析工業株式会社
<https://www.jai.co.jp>

東京都西多摩郡瑞穂町武蔵208
TEL:042-557-2331 FAX:042-557-1892
E-mail:n-oguri@jai.co.jp

●創業:1965年9月 ●従業員数:30名(2022年8月末現在)



独自の流通モデル・地産地消型ビジネスを構築

都市農業と家庭の食卓の距離を縮める

5つの柱で事業を展開し
都市農業の活性化をサポート

株式会社エマリコくにたちは東京野菜に特化したベンチャー企業だ。

「都市農業を次世代につなぐ」という強い思いのもとに、自社による集荷・買取り方式を採用し、採れたての農産物を

直売所事業、飲食事業、卸事業を通して消費者に届けているのだ。さらに、運営受託・コンサル事業や、後述する農体験事業も手掛け、5つの柱で都市農業の活性化に貢献している。

「私は前職がデベロッパーだったことから、東京近郊の農地がどんどん宅地化されていくことに疑問を感じていました。この傾向を放置していると、数十年後は不便な場所の住宅地はかなり厳しい状況、ともすればゴーストタウンにもなりかねません。そうであれば、緑ある空間を残すべきです」と菱沼勇介社長。とはいえ、東京近郊で取引農家を確保し、採れたての野菜を新鮮な状態で流通させることは簡単ではなかったという。

「当社のような地産地消型ビジネスは天気にも左右されることから、商材となる野菜の安定供給が容易ではありません。しかし設立当初に10軒ほどだった取引農家も現在は135軒ほどに増えて問題なく供給できるようになり、評価してくれる卸し先も増えました」

日本の農業が抱える課題として「農家の高齢化・戸数減少」が取り上げられるが、戸数を増やす、耕作放棄地を活用する

といった供給ベースの政策より「需要を伸ばすことのほうが重要」と菱沼社長はいう。同社の事業はその考えに直結したビジネスモデルなのだ。

都会に暮らす人々にも
農業を知ってもらいたい

エマリコくにたちは、たくさんの子どもたちに農家の仕事や食の背景に理解を深めてもらいたいと、2019年に農体験事業「農いく」を立ち上げた。

主に、東京にある畑で旬の野菜や果実を収穫する、採れたての作物の瑞々しさを味わう、出荷を手伝うなど、体験イベントを月に数回開催している。

「都会に住んでいる人たちは農業について知っておくのは大切なことです。そのためにも、私たちが事業を通して応援している農家さんたちが果たす役割は大きいと思います。『農いく！』が親にとつても子どもにとつても都市農業に触れる最初の入り口になればうれしいですね」と菱沼社長。参加した子どもたちが「以前より野菜をよく食べるようになった」という声も多いそうだ。

株式会社エマリコくにたち

代表取締役

ひしぬま ゆうすけ
菱沼 勇介氏

神奈川県出身。一橋大学在学中に、国立市にて商店街活性化活動に携わる。卒業後、三井不動産、アビーム・コンサルティング、NPO法人地域自給くにたちを経て、2011年、株式会社エマリコくにたちを創業。

第11回・第16回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

株式会社エマリコくにたち
<http://www.emalico.com>

東京都国立市1-1-1

TEL:042-505-7315 FAX:042-505-7315

E-mail:shunka@emalico.com

●創業:2011年4月 ●従業員数:70名(2022年8月末現在)



社長のひとこと

来年度、旗艦的直売所を国分寺または近隣市に出す予定です。いずれは東京都全域を集荷範囲にすることで、何かおもしろいことができるのではないかと考えています。東京都産農産物で、圧倒的なニッチトップ企業になりたいですね。

Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。

受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。

1 法政大学中小企業論

実施日 2022年5月30日(月)～7月11日(月)

法政大学社会学部の学生に会員企業7社の経営者が講義を行いました。当日は「経営に対する想い」や「自社のビジネスモデル」などについてお話をいただき、中小企業に対するイメージの変化や魅力を伝えることができました。



登壇者

株式会社VRC
代表取締役社長

謝 英弟 氏

東成エレクトロビーム株式会社
代表取締役社長

上野 邦香 氏

金澤建設株式会社

代表取締役社長 金澤 貴史 氏

株式会社イズミ
取締役環境事業部長

清水 弘幸 氏

エム・ケー株式会社
常務取締役

小林 久恵 氏

取締役企画営業部長 金澤 大恵 氏

株式会社キャリア・ママ
代表取締役

堤 香苗 氏

株式会社榎本調剤薬局
相談役

越阪部 修一 氏

2 従業員向けセミナー「意識習慣を変える方法」

入社2～5年目程度の若手従業員の方を対象とした連続プログラム(2回)を開催し、知識習得と参加者間のネットワーク形成を図るため、6社より22名の方に参加いただきました。今後も会員企業のさらなる成長を担う若手従業員向けの取組みを実施していきます。

実施日 第1回 2022年6月28日(火)

「モチベーションが高まる自己分析
～パフォーマンスUPはモチベーションにあり～」

実施日 第2回 2022年7月25日(月)

「自他を高めるコミュニケーション
～チームで成果を上げ、役割を見出す～」

参加者アンケートの結果

参加者の声(抜粋)



- キャッチコピーを作るのは難しかったが、やったことがなかったので面白かった。
- コロナ対策でやむを得ないのですが、対岸の席に座られている方のお話が両日とも聞きにくかった。ワーク自体は自身を見つめ直すいい機会になった。
- 自分を改めて精査するいい機会になった。趣味が自己分析なので分かっていることも多々あるが、こうして人に宣言することはないので楽しかった。
- 気が楽になる内容で息苦しさなかった。100%でなくとも実行しようと思った。
- 自分のキャッチコピーをつくる作業は色々勉強になった。
- 今までモチベーションが低かったが、上げ方や自分の良い点、悪い点を改めて考えることができてよかった。

「第32回例会」のご案内

日時 2022年10月28日(金) 14:00~17:00 (受付開始 13:30)

場所 たましん本店4階 大会議室 (東京都立川市緑町3-4)

内容 例会 14:00~

第1部 講演

『深く考えず、やりたい事はさっさと始めよう、
人生は短い』

う え だ ひ さ し
■ **植田 紘栄志氏**

株式会社ミチコーポレーション
代表取締役・冒険起業家

1971年岐阜県生まれ。豪州ウィリアムス・ビジネス・カレッジ卒業後、東京にてミチコーポレーション設立。スリランカにてペットボトルリサイクル事業や象の排泄物の再生紙「ぞうさんペーパー®」など多くのビジネスを事業化する。2011年に広島県北広島町芸北地区にある山里に移住し「芸北ぞうさんカフェ」を拠点に、国際ビジネスの他にも様々な田舎活性化ビジネスを展開中。2018年には世界で最も田舎にある出版社『ぞうさん出版』を立ち上げる。著書に『冒険起業家ゾウのウンチが世界を変える。』



第2部 多摩地区大学就職研究会との
インターンシッププログラム実施報告

第3部 事業報告 他

情報交換会 17:15~

定員 60名程度

申込方法

以下のいずれかの方法にて**10月14日(金)**までにご回答ください。

以下のURLの受付フォームにてお申込。

https://www.tamashin.jp/bg-club/event_app/reikai.html



- ・ご自身に発熱(37.5度以上)の症状や体調が優れない場合は参加をお控えください。
- ・会場の入口付近にアルコール消毒液を設置しますので、入室時には、手指のアルコール消毒をお願いします。
- ・マスクを着用した上でご参加くださいますよう、ご協力をお願いします。
- ・会場内での飲食はお控えくださいますようお願いいたします。適宜水分を補給いただくことはこの限りではありません。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、中止や延期、内容の一部変更となる可能性があります。

多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市緑町3-4

TEL: 042-526-7728 E-mail: bg-office@tamashin.net